

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第46週[11月15日～11月21日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

県内情報

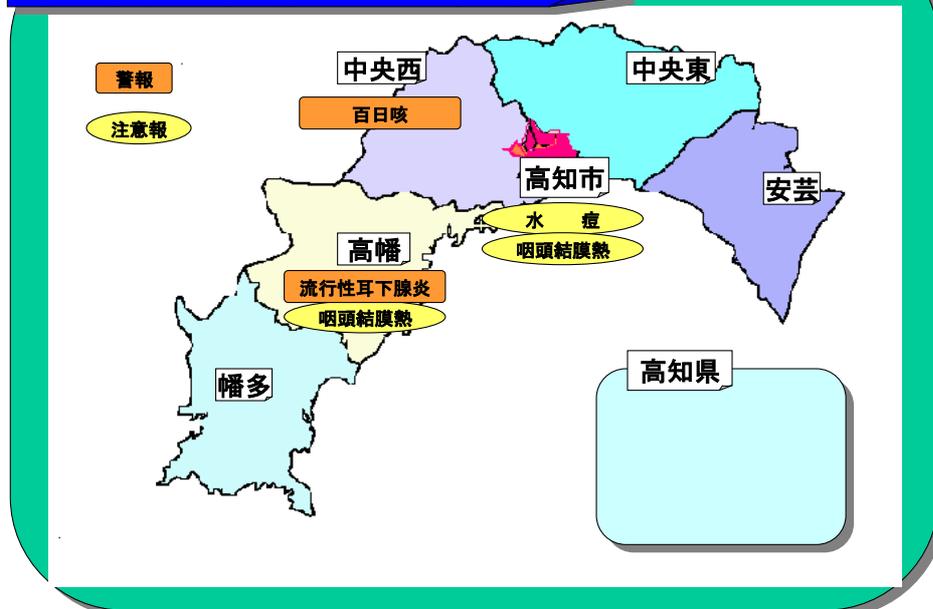
○ 患者情報総評

注意報発令疾患：なし

- ・ 今週も安定した天気で、気温は例年並であった。
- ・ 感染性胃腸炎は中央東と高幡で減少し、その他の地域では増加し、総数はやや増加した。
- ・ 咽頭結膜熱（高知市：注意報→注意報，高幡：注意報→注意報）は高幡と高知市で引き続き注意報値を超しているが、総数は減少した。
- ・ 水痘（高知市：注意報）は高知市と中央東で増加し、総数は約1.7倍増となった。
- ・ 百日咳（中央西：警報）は中央西で成人3例の報告があり、警報値を超した。
- ・ 流行性耳下腺炎（高幡：注意報→警報）は高幡で流行がみられており、今週は警報値を超した。

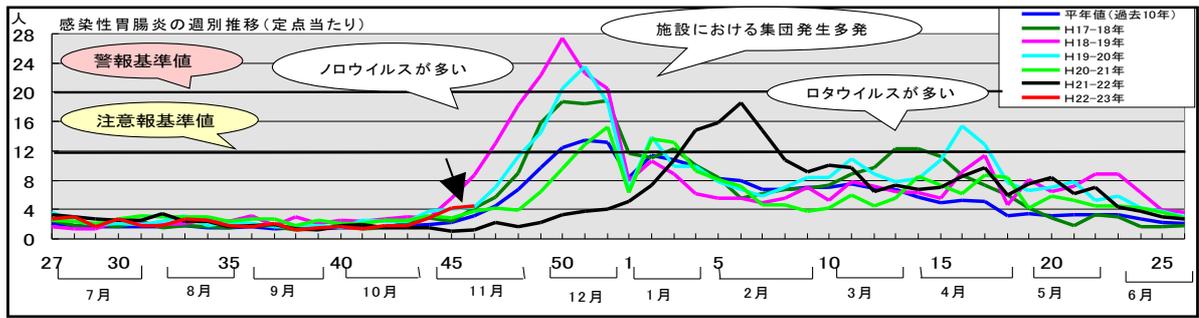


地域別感染症注意報・警報発生状況 第46報 (2010年11月15日～2010年11月21日)



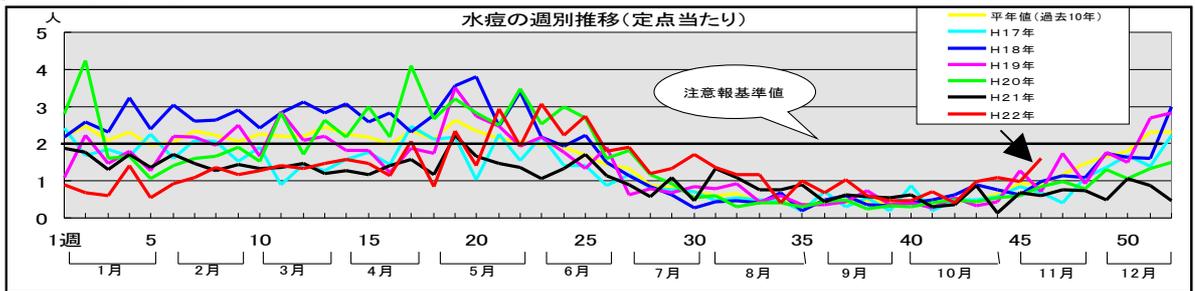
感染性胃腸炎：今週4.57 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

中央東と高幡を除く地域で増加し、総数は引き続き増加した。注意報値を超える地域はまだないが、搬入された検体からは *Sapo virus* 3件、*Campylobacter coli* 1件が検出されており、今後も注意が必要である。



水痘：今週1.60 (注意報値：2.00 警報値：4.00)

第42週に今年の最少値となり、その後増加傾向となっている。前週の約1.7倍増となり、高知市で注意報値を超している。



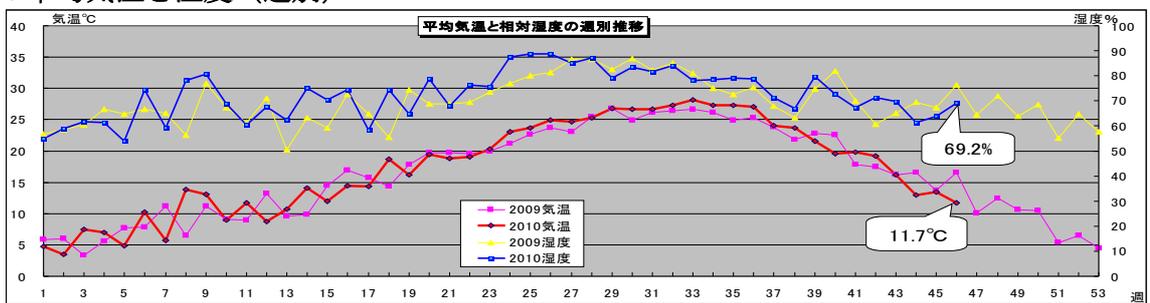
○ 検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
44	感染性胃腸炎	5歳 男	高知市	Sapovirus
44	感染性胃腸炎	1歳 男	高幡	Sapovirus
44	感染性胃腸炎	2歳 女	高幡	Sapovirus
46	感染性胃腸炎	17歳 男	中央東	Campylobacter coli
46	マイコプラズマ肺炎	3歳 男	高幡	Mycoplasma pneumoniae
46	百日咳	3歳 女	高幡	Mycoplasma pneumoniae

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 5例 (76, 86歳男) 《高知市》 (65歳男) 《須崎》 (93歳男) 《中央東》 (86歳女) 《幡多》 (今年141例)
 4類感染症：日本紅斑熱 1例 (75歳男) 《中央西》 (今年7例)
 日本脳炎 1例 (70歳男) 《高知市》 (今年1例)

○ 高知県の平均気温と湿度 (週別)



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《さたけ小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 1例 (2歳女)

高幡：

《もりはた小児科》：流行性耳下腺炎の流行が続く

中央西：

《石黒小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 1例 (16歳女)

水痘の1例 (5歳男) は予防接種済み 帯状疱疹 1例 (5歳男)

《くぼたこどもクリニック》：感染性胃腸炎の1例（2歳女）は高知市

高知市：

《福井小児科・内科・循環器科》：アデノウイルス陽性 5例（0～14歳男女）

《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス扁桃炎 5例（1, 2歳男女）

マイコプラズマ肺炎 6例

《塩見クリニック》：アデノウイルス扁桃炎 1例（6歳男）

中央東：

《吉本小児科皮膚科》：アデノウイルス陽性 2例（2歳女, 5歳男）

カンピロバクター腸炎 1例（17歳男）

《あけぼの小児クリニック》：アデノウイルス咽頭炎 1例（1歳女）

マイコプラズマ肺炎 3例（9歳男女, 12歳女）

インフルエンザの1例（45歳女）はA型陽性

《早明浦病院小児科》：RSウイルス感染性気管支炎 1例（2ヵ月男）

《野市中央病院小児科》：病原大腸菌O-18 1例（13歳女）ベロ毒素（－）

病原大腸菌O-1 1例（1歳男）ベロ毒素（－）

百日咳の1例（14歳男）は東浜株5120倍, 山口株2560倍

全国情報第44週（11/1～11/7）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核258例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症29例（有症者21例、うちHUS 2例）、腸チフス1例、パラチフス1例感染

4類感染症：A型肝炎3例、回帰熱1例、つつが虫病3例、デング熱2例、日本紅斑熱1例、マラリア2例、レジオネラ症11例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎（B型）1例、急性脳炎1例、クリプトスポリジウム症1例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、後天性免疫不全症候群15例（AIDS 1例、無症候14例）、梅毒6例、破傷風1例、麻しん1例

報告遅れ：E型肝炎1例、日本紅斑熱3例、レプトスピラ症1例、急性脳炎2例

◆感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は多種多様な原因によるものを包含する症候群名である。全国約3,000カ所の小児科定点からの患者発生報告数が増加するのは冬季であり、その大半はノロウイルスやロタウイルス等のウイルス感染を原因とするものであると推測されている。また、患者発生のピークは例年12月中となることが多く、同時期の感染性胃腸炎の、特に集団発生例の原因の多くはノロウイルスによるものであると考えられてきた。

ノロウイルス感染症の潜伏期間は数時間～数日（平均1～2日）で、主な症状は嘔気・嘔吐及び下痢であり、嘔吐・下痢は1日数回から多いときには10回以上のこともある。しかし、症状持続期間は数時間～数日（平均1～2日）と比較的短く、以前から他の病気がある等の要因がない限りは、重症化して長期にわたり入院を要することは少ない。また、発熱の頻度は高くはない。治療では特效薬はなく、対症療法となるが、最も重要なことは水分補給によって脱水を防ぐことである。

ノロウイルスの感染経路としては、以前は食中毒としての経口感染がよく知られていたが、患者や無症状病原体保有者との直接もしくは間接的接触による接触感染や、患者の嘔吐物や下痢便を介した飛沫感染等のヒト→ヒト感染があり、その感染力は非常に強い。乳幼児の集団生活施設である保育所や幼稚園、小児の集団生活施設である小学校等においては、これら接触感染や飛沫感染等により、集団発生が繰り返されてきているものと推察される。また、2006年12月の東京都豊島区のホテルにおいて発生した集団感染事例のように、「吐物や下痢便の処理が適切に行われなかったために残存したウイルスを含む小粒子が、掃除などの物理的刺激によって舞い上がり、それを間近とは限らない場所で吸引し、経食道的に嚥下して消化管へ至る感染経路」である「塵埃感染」が発生する場合がある。

感染症発生動向調査によると、感染性胃腸炎の2010年第44週の定点当たり報告数は5.31（報告数16,111）と、第42週以降3週連続して増加がみられている。都道府県別では、山形県（19.80）、大分県（19.14）、新潟県（11.52）、山口県（11.35）、長崎県（10.70）、福岡県（8.51）、佐賀県（8.39）、福井県（8.14）の順となっている。第44週は37都道府県で前週の報告数よりも増加がみられているが、特に大分県、長崎県、山口県、新潟県、福岡県の報告数の増加が目立っている。感染性胃腸炎は大半の学校や幼稚園等の小児の集団生活施設が夏季休暇中である第33週前後に年間の最少の報告数となることが多い。殆どの学校や幼稚園等の小児の集団生活施設の夏季休暇が終了した直後の第36週から第44週までの定点当たり累積報告数は32.1（累積報告数97,165）で、年齢群別では0～1歳26.8%、2～3歳21.3%、4～5歳16.2%、6～7歳9.9%の順であり、5歳以下で全報告数の60%前後を、7歳以下で70%以上を占めているのは例年と同様である。

小児科の定点医療機関数が約3,000定点となった1999年以降でも、これまで感染性胃腸炎の報告数は多くの年で11月に入ると急増し、12月中（第49～52週）にピークを迎えるという流行を毎年繰り返してきた。2010年第44週の感染性胃腸炎の報告数は、国内の大半の地域で増加が認められ、今後更に急激な増加が多くの地域で見られると予想される。感染性胃腸炎の発生動向にはより注意深い観察が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(45週)	高知県(46週未累計) H22/1/4~H22/11/21
			中央東	高知市	中央西						
内科・ 小児科	インフルエンザ		1	3			1	5 (0.10)	9 (0.19)	1,216 (0.25)	2,587 (53.90)
	咽頭結膜熱		2	12		2		16 (0.53)	22 (0.73)	946 (0.31)	402 (13.40)
	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎		2	15	1	3	2	23 (0.77)	19 (0.63)	4,359 (1.44)	952 (31.73)
	感染性胃腸炎	8	18	47	17	3	44	137 (4.57)	124 (4.13)	23,366 (7.70)	8,005 (266.83)
	水痘	1	10	32	2	2	1	48 (1.60)	29 (0.97)	3,842 (1.27)	1,795 (59.83)
	手足口病		1	1				2 (0.07)		1,045 (0.34)	3,228 (107.60)
	伝染性紅斑				1			1 (0.03)	1 (0.03)	930 (0.31)	232 (7.73)
	突発性発疹	1	2	3			2	8 (0.27)	6 (0.20)	1,646 (0.54)	570 (19.00)
	百日咳		1		3			4 (0.13)		86 (0.03)	75 (2.50)
	ヘルパンギーナ		3	2				5 (0.17)	2 (0.07)	185 (0.06)	1,031 (34.37)
	流行性耳下腺炎			1		9	3	13 (0.43)	6 (0.20)	3,688 (1.22)	249 (8.30)
	RSウイルス感染症		4	7		1		12 (0.40)	1 (0.03)	1,603 (0.53)	812 (27.07)
眼科	急性出血性結膜炎								0.00	9 (0.01)	2 (0.67)
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	3 (1.00)	412 (0.61)	75 (25.00)
基幹	細菌性髄膜炎			1				1 (0.14)		15 (0.03)	12 (1.71)
	無菌性髄膜炎			1				1 (0.14)		12 (0.03)	19 (2.71)
	マイコプラズマ肺炎			3				3 (0.43)	3 (0.43)	334 (0.72)	87 (12.43)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									22 (0.05)	23 (3.29)
計 (小児科定点当たり人数)		10 (5.00)	44 (6.23)	129 (11.10)	24 (8.00)	20 (10.00)	53 (10.53)	280 (9.07)			
前週 (小児科定点当たり人数)		9 (4.50)	31 (4.43)	107 (8.93)	18 (6.00)	21 (10.50)	39 (7.80)		225 (7.19)	43,716	20,156 (632.26)

定点当たり

第46週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(45週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・ 小児科	インフルエンザ		0.09	0.19			0.13	0.10	0.19	0.25
小児科	咽頭結膜熱		0.29	1.09		1.00		0.53	0.73	0.31
	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎		0.29	1.36	0.33	1.50	0.40	0.77	0.63	1.44
	感染性胃腸炎	4.00	2.57	4.27	5.67	1.50	8.80	4.57	4.13	7.70
	水痘	0.50	1.43	2.91	0.67	1.00	0.20	1.60	0.97	1.27
	手足口病		0.14	0.09				0.07		0.34
	伝染性紅斑				0.33			0.03	0.03	0.31
	突発性発疹	0.50	0.29	0.27			0.40	0.27	0.20	0.54
	百日咳		0.14		1.00			0.13		0.03
	ヘルパンギーナ		0.43	0.18				0.17	0.07	0.06
	流行性耳下腺炎			0.09		4.50	0.60	0.43	0.20	1.22
	RSウイルス感染症		0.57	0.64		0.50		0.40	0.03	0.53
	眼科	急性出血性 結膜炎								
流行性角結膜炎				1.00				0.33	1.00	0.61
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.14		0.03
	無菌性髄膜炎			0.20				0.14		0.03
	マイコプラズマ肺炎			0.60				0.43	0.43	0.72
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.05
計 (小児科定点当たり人数)		5.00	6.23	11.10	8.00	10.00	10.53	9.07		
前週 (小児科定点当たり人数)		4.50	4.43	8.93	6.00	10.50	7.80		7.19	

2010年週報推移(定点当たり)

